

## 農業経済学特論演習 I (2単位)

担当者氏名 吉野馨子

## ◆学習・教育目標

本講義は、農業経済学専攻の大学院生が、修士論文等を視野に調査研究をおこなう前提として、環境と農山漁村、地域社会に関する基礎的な事項と課題を学ぶことを目的としている。本講義では、国内及び第三世界の農山漁村における地域環境への働きかけと持続的な利用の形態に注目し、その仕組みと変容、そして地域の課題を解決しようとする取り組みについて学ぶ。中心的なテーマは、地域資源の伝統的な利用、共的な利用と管理のシステム（コモンズ）である。授業では、講師が用意する専門書や論文の輪読及び、テーマに沿って受講者が資料作成及びプレゼンテーションをおこない、その内容についてディスカッションを行う形式で進める予定である。

受講生は、地域の自然と地域資源を生かした持続的な利用のあり方や地域の課題を解決しようとする取り組みについて理解することが目標である。

## ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

<u>農山漁村</u>	<u>環境</u>	<u>資源</u>	<u>サブシステム</u>
<u>コモンズ</u>	<u>コミュニティ</u>	<u>経済のグローバリゼーション</u>	

## ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	総論	本講義の狙いと受講生の研究課題	各自の興味あるテーマ、論文の選択
2	テーマ1 サブシステム(自給)と在地の知	サブシステムとは？	
3	(2~7回)	サブシステムの成り立ち、変容と今日的価値	プレゼンテーションの準備、配布資料の予習、復習
4		国内及び第三世界、在地の知とその変容	
5			
6			
7			
8	テーマ2 コモンズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コモンズ概念、類型と地域性</li> <li>・我が国の山・海の入会</li> <li>・タイトなコモンズとその変容</li> <li>・アジアのルーズなコモンズ(インドネシア焼畑の村、バングラデシュでの内水面など)</li> <li>・ルーズなコモンズの変容</li> <li>・コモンズの今後のあり方をめぐる議論</li> </ul>	毎回、教員の指示に従い、1時間~2時間程度の予習・復習を行うこと。
9	(8~14回)		
10			
11			
12			
13			
14			
15	まとめ	総合討論	

## ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

## ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

## ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

プレゼンテーション、議論への参加、レポートの提出等から総合的に評価する。

◆オフィスアワー

火曜日、10:30～12:00、水曜日 14:50～17:00

---

◆その他受講上の注意事項

必要に応じて、講義中に指示するので留意されたい。

---